

現代版 白山詣双六



江戸時代に作られた
白山詣双六の面白さを
今に伝える、
現代版白山詣双六。

石川県立歴史博物館
の「大鑑コレクション」

の中に、江戸末期頃に刷

られた絵双六「新版手擲清水

参並白山詣双六」があります。振りだし

は東山の西養寺で、上がりは白山比咩神社。マス目には全二四ヶ所の景観が白山

参詣道として描かれており、往時の街道筋の庶民生活に想いを馳せることができま

す。双六に登場するのは白山信仰にとどまらず、歓喜天、天神様、牛頭天王を祀る

神社仏閣や太陽信仰の神社もみられます。賽銭ポイントなども設

定され、ゲーム性にも配慮されたことも推察されます。

江戸時代末期から約200年の時が経ち、白山参詣をめぐる風景は

様変わりしました。そして今、「新版手擲清水参並白山詣双六」を手本にして、その

面白さを継承した「現代版白山詣双六」を編集しました。当時の双六と比べながら、

白山参詣を是非楽しんでください。



現代版 白山詣双六

「ふりだし」は東山の西養寺、「上り」は白山比咩神社。
24ヶ所の景観が描写された江戸末期の絵双六をモチーフにした
現代版の白山参詣ウォーク。



「新版手擲清水参並白山詣双六」解説

- 1 卯辰西養寺
- 2 乗龍寺
- 3 浅野川大橋
- 4 堤町紙屋(堤町かみ屋)
- 5 厚川大橋
- 6 玉泉寺天満宮
- 7 上泉村(地蔵庵村)
- 8 泉野一本松
- 9 寺地の天王
- 10 山科
- 11 産の橋
- 12 たこやま(南尾山)
- 13 額谷茶屋
- 14 四十万
- 15 曾谷
- 16 坂尻
- 17 小柳茶屋
- 18 日御子の森
- 19 手叩き清水
- 20 月橋
- 21 鶴来
- 22 金剛宮
- 23 神主町
- 24 白山

江戸時代、金沢より離れた奥宮の
白山へ登るのは難行であった。中宮の
役目をした松新宮や中宮前立へ参るの
もむづかしく、早朝に出立すれば徒歩で
往復できる下宮の白山詣を選ぶ人が多
かった。金沢より日帰り可能な白山詣は、
金沢より日帰りが可能と言ってもかなりの
肉体的苦勞をとらざるを得ず、藩士や
庶民は、一月、五月、九月を参り月とし
ていたようである。ところで、この双六の
題名は「白山詣」となっていない。題名
は「手叩き清水」をトップにすえて主に、
「白山詣」を従としている所に、双六に内
存させている意図と、刷り年を暗示させ
る鍵が隠されているように思える。清水
は、泰澄が掘ったとも、白山火の御子峰
と地下でつながっているとも伝え、清水
脇には観音が祀られ丙午年に開帳があ
り、開帳年には茶屋が立ち並ぶ程であ
ったらしい。江戸末期の丙午年は、天明六
年(一七八六)、弘化三年(一八四六)で
ある。この双六の題名のトップに手叩き
清水をもってきたのは、丙午年の参詣を
あてこんだ広告としての機能をもたせた
ものと推察する。

(参考文献 歴史の道調査報告書／編者：石川県教育委員会)

「加賀藩と雪峰白山」観光連携事業

